

今月の技術対策 (畑作編)

留萌農業改良普及センター

TEL : 0164-62-1779 FAX : 62-2474

E-mail: rumoi.nakanoukai1@pref.hokkaido.lg.jp

水稲・園芸編も
HPで公開中!

【秋まき小麦】

1 ほ場の確認

ほ場確認を行い、滞水が見られる場合には溝切り等による排水促進を、また、融雪が早いほ場については、凍上害(根が地表より剥離し、浮いた状態)発生の有無を確認しましょう。凍上害の発生が見られたら、ほ場に入れるようになり次第、速やかに鎮圧を実施して下さい。

2 起生期追肥

(1) 安定多収を目指すためには、莖数をコントロールすることが重要です。例年、莖数過多のほ場が多く見られますので、起生期(春期に至り40~50%が生長を開始し、葉が起立を始めた日)の莖数に応じ、窒素施肥量を調整しましょう。

「つるきち」は莖数が比較的早い時期から減りやすく、耐倒伏性が「きたほなみ」より高いので、起生期の窒素施肥量を8 kg/10aとします。

表 起生期莖数に応じた窒素施肥量

(kg/10a)

品種名	きたほなみ		ゆめちから		つるきち
	起生期莖数		起生期莖数		
判断基準	起生期莖数		起生期莖数		つるきち
生育期節	1,300本/㎡未満	1,300本/㎡以上	1,300本/㎡未満	1,300本/㎡以上	
起生期	4~6	0~2	6	2~4	8
幼穂形成期	4	4	6	6	4

3 スズメノカタビラ対策

- スズメノカタビラの発生が多いほ場については、春期のトレファノサイド乳剤の散布を検討して下さい。越年株には効果が劣りますが、春期に発芽する種子に対し効果があります。
- 散布に当たっては、融雪後の早い時期の散布ほど効果が高いので、ほ場に入れるようになり次第、速やかに散布を実施して下さい(使用の際には必ずラベル等で登録内容を確認してください)。



写真 長期輪作体系で

雑草密度を下げましょう!

(写真はスズメノカタビタ)

【春まき小麦】

1 は種 **重要**

(1) は種時期の設定

- ・ほ場が過湿状態等、悪条件での種作業は収量低下につながります。
- ・早期は種が基本です。遅くとも4月20日頃までに、は種しましょう。

(2) は種量

- ・秋まき小麦同様に安定多収のためには、茎数をコントロールすることが重要です。
- ・過剰な茎数は倒伏等による歩留まりや収量の低下を招きます。
- ・は種量は、その年に使用する種子の重量で計算し、適正は種量となるよう調整してください。

《計算例》※種子の配布ロットにより、千粒重は異なります。

◎ R 5 配布春よ恋種子千粒重：38.0g、は種粒数：340粒/m²、出芽率：90%

$$38.0 \times 340 \div 0.9 = 14,356 \text{ g} = \mathbf{14.4 \text{ kg/10a}}$$

(3) は種深度

- ・深まきは出芽率の低下や生育不良により、茎数不足の原因となります。
- ・深さ2～3cm程度となるよう、作業時には必ず確認・調整しましょう。

(4) 施肥

- ①施肥量は「北海道施肥標準」を参考に、土壌診断や前作、有機物の施用状況により増減します。また、全量基肥で施用して下さい。
- ②「銅欠乏」を生じることがあるので、銅(Cu)入り肥料銘柄(BB121Cuなど)の使用も検討して下さい。

表 道北における施肥標準 (kg/10a)

区分	窒素(N)	リン酸(P)	カリ(K)	苦土(Mg)
低地土	8	12	8	3
泥炭土	6	14	9	4
台地土	9	14	8	4

(5) 除草剤

は種後は速やかに土壌処理効果のある除草剤を散布して下さい。

【豆類】

1 は種準備

(1) は種時期の検討

例年、ほ場乾燥による出芽不良が見られることから、適正水分時のは種に努めましょう。
は種時期については、適期である5月20日頃を目安とし、作業計画を検討して下さい。

(2) ほ場準備

排水対策(心土破碎等)やpH矯正(pH6.0前後)など事前準備をしっかりと行いましょう。